

## 第 43 回 100 年史誌部会 議事録

日時: 2009 年 11 月 25 日(水) 16 時 15 分 ~ 17 時 20 分

場所: 管理棟 2 階 第二応接室

出席者: 横山孝男部会長、松田則男、神戸士郎、小山明夫、新関久一、大町竜哉、奥山澄夫、粟野宏、高畑保之、山崎洋一郎各委員、小室秀一編集局員、斎藤ひろみ編集補助員、小関栄助氏

欠席者: 小池邦博、結城敏夫、片山政弘委員

### 【配布資料】

- [資料 43-1] 山形大学工学部百年史編集局 お知らせ(写真提供のお願い) [A4 判 1 枚]
- [資料 43-2] 米澤高等工業学校初代校長・大竹多氣について、写真他 [A4 判 3 枚/3 ページ]
- [資料 43-3] 『百人の声』原稿依頼状況 [A4 判 1 枚 / 2 ページ]
- [資料 43-4] 『百人の声』「振り返って米沢」山川孝一氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-5] 『百人の声』「笑顔と科学の利便性」青木範雄氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-6] 『百人の声』「私にとっての山大工学部」高橋清夫氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-7] 『百人の声』「150 周年目の夢」折原勝男先生 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-8] 『百人の声』「もの作り」に思う」奥田慎一氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-9] 『百人の声』「理系の人材育成」沼尻卓也氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-10] 『百人の声』「米沢人の独り言」佐藤秀彰氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-11] 『百人の声』「専攻科の開設」上村勘二氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-12] 『百人の声』「環境問題と工学部」菊地新一氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-13] 『百人の声』「予想以上に地域に期待されている工学部」近藤元一氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-14] 『百人の声』「特許の国際出願について」小林紀和氏 [A4 判 1 頁]
- [資料 43-15] 記念誌「Introduction Dialogue - イノベーションを育む風土」 [A3 版 4 枚 / 7 ページ]
- [資料 43-16] 山形大学駅伝競争大会(今月の話題 2009 年 11 月) 松田則男 [A4 判 1 枚 / 2 ページ]

### I) 報告 & 連絡事項

1. 横山部会長から実行委員会に関する報告があった。

(1) 百周年記念事業に係る各部会に関する報告があった。

- ・ 100 周年記念会館の建設事業は来年 10 年を目指して着工に着手する。
- ・ 募金に関してはもう少し必要であり、更に 3000 万円の醸金を目指す。
- ・ 史誌部会に関しては総務部会を通して来年度の提案をした。
- ・ 100 周年記念誌は予定通り 3 月脱稿で進めている。
- ・ 百年史は 2010 年度から 1 年遅らせて発刊したい旨の提案を行ない了承された。また、この編纂期間の延長にともない、小室編集局員ならびに斎藤編集補助員の雇用期間の延長と予算の確保を提案した。半年で終わらせることができないか、などの意見も出されたが、部会長が 1 年の必要性を主張し、二人を 1 年間雇用する予算が正式に認められた。

(2) 松田委員から 1 万円以上の募金をされた方に記念誌を贈呈する提案があることの話が出され、発行部数と予算の関連についての意見交換がなされた。

- ・ 横山部会長から、印刷は別途予算であること、部数についてはこれから決めること、3 月脱稿で進めること、また教育振興会や後援会、工学部の予算で印刷し今のところ 5,000 部発刊する案があることの説明がなされた。

2. 斎藤ひろみ編集補助員から、ホームページの更新に関する報告があった。

- (1) 東宮(皇太子)殿下御来校資料(大正 14 年 12 月)の資料を公開した。
- (2) 第 2 回卒業式(大正 3 年 3 月)の校長からの報告資料を公開した。
- (3) 百年史誌部会 41 回ならびに 42 回の議事録を公開した。
- (4) 昭和 35 年以後の写真提供のお願いをお知らせに追加した[資料 43-1]。これはぎょうせい・村田氏から、記念誌などに使用する写真について、戦前はアーカイブから対応できるが、昭和 35 年以後の写真が足りないので、写真を至急提供していただくように部会員から各方面にお声をかけていこう、依頼があったことからの対応である。写真提供のお願いは山崎委員に、ブログへも掲載していただくよう要請があった。

## II) 協議事項

### 1. 100 周年記念誌

米澤高等工業学校初代校長大竹多氣について[資料 43-2]に基づき小関氏から報告があった。

- ・ 大竹多氣の文学に関する資料を集めている。多くの著作があるものの、本人は文士であることを否定している。大竹多氣が影響を受けた「新体詩抄」は日本文学史では低く扱われているが、自由民権運動にかかわる自由な結社のひとつと考えて内容からみて納得がつく
- ・ 11 月 16 日に孫の大竹俊樹氏宅に行き「The Lady of the lake」を借りてきた。多氣が所有していたと思われるが、印刷年が不明である。
- ・ 多氣の学友の三島彌太郎が山形県師範学校出身であることから、教育学部に問い合わせ確認している。また、教育学部の 100 周年記念誌を山形図書館から借用し、調査をしている。
- ・ 以上の調査報告の後、横山部会長から「昔なので地域の繋がりが強く、會津に資料が残っているのだろう」とのコメントがあり、小関氏に調査・研究を継続するよう要請があった。

「百人の声」原稿執筆依頼状況 (資料 36-4、36-5、36-6)

1). 松田委員から[資料 43-3]に基づき報告があった。

- ・ 11 名から原稿が寄せられた[資料 43-4]～[資料 43-14]。
- ・ 機械システム工学科 三留先生からは快諾を頂いた。近日中に入稿予定である。
- ・ 既に 83 件の原稿が寄せられており、予定原稿数にもうすぐ達する。横山部会長から、各部会員に、執筆依頼をしている方々への確認作業が要請された。

記念誌取材記事の確認について

- 1). 山形大学工学部百周年記念誌・パトリアの学府 Introduction Dialogue - イノベーションを育む風土[資料 43-15]の紹介があった。各自、目を通して事実確認、内容の確認をするよう要請があった。
- 2). 前回配布した「最先端ラボラトリ」についても同様に内容の確認をするよう要請があった。
- 3). 現在、記念誌の分量は予定より 6 ページ増えている。予定の 1 割以内の誤差であり、妥当な量であろうと横山部会長からコメントがあった。
- 4). 松田 J 班長から、工学部後援会の記事が無い件について指摘を受けた旨、報告があった。これを受けて横山部会長から以下の追加説明があった。後援会が気づき、18 日の実行委員会で記事掲載の要望があった。記念誌の組み替えを行うなど、すぐに対応することとした。

#### (株)ぎょうせいの進捗状況

- ・ 11月16日の週に(株)ぎょうせいの村田氏が来米し、写真の選択を行った。昭和35年以後の写真が不足しており、写真の提供を広く募ることとした。
- ・ 小室編集局員から「100年の年代記」について、以下の説明があった。「100年の年代記」は通史のダイジェスト版であり、プロのライターが執筆した。その記事を数名で読みあわせ、誤認事項や記述の間違い、脱落などをチェックしている。最低限のチェックを済ませた後、部会員に校閲・校正を依頼する。

## 2. 100年史

今月の話題について松田委員から[資料 43-16]に基づき報告があった。次回は小山委員が担当である旨、報告があった。

#### 部局史の進捗状況

- 1). 結城委員から伝言で事務ユニットの部局史は事務長が執筆で進行中である旨報告があった。
- 2). 部会長から工学部後援会に関しては百年史ではなく、記念誌への掲載であるとの確認があった。
- 3). 大町委員から、機械システム工学科の部局史に関して、最終章の「未来への展望」を植松先生や飯塚先生が執筆してくださり、残りを大町委員が執筆している。一通りできあがる見込みであることの報告がなされた。
- 4). 部局史に関連して、ものづくり技術経営学(MOT)専攻の取扱いに関して議論がされた。MOTについては、野長瀬専攻長に執筆依頼をすることとした。部会との連絡は高畑委員が担当する。
- 5). 2010年の学科改組、新学科の取扱いに関する議論がなされた。
  - ・ まず、Bコースの改組に関連し、システム創成工学科の話題は機械に関連した方に追加の執筆をして頂くのが適任であるとの意見が出る一方、通史の12章に入れてはいかがかという意見も出された。そこで、システム創成工学科の話題を通史の第12章に入れて欲しい旨、学部長室に要望を出すこととする。更に1月に学部長室から提出された通史第12章の原稿を見て、その後の判断をすることにした。
  - ・ また、大学院生体センシング機能工学専攻が2010年から学生入学募集を停止する件に関連し、神戸委員が生体センシング機能工学専攻の部局史を書き直している旨、報告があった。
  - ・ ただし、バイオ化学工学科の新設に関しては、生体センシング機能工学専攻とは別の対応が必要になる。バイオ化学工学に関しても学部長室の原稿を見てから対応することとする。

#### 通史の進捗状況

- 1). 小室編集局員から通史執筆について、前回通り進んでいる旨、報告があった。
- 2). 第1章「明治前期の工業教育」は草稿の執筆は終了し、現在手直し中である旨、横山部会長から報告があった。
- 3). 第2章「米沢高等工業学校創立と拡充」は終了した旨、小室編集局員から報告があった。初代校長の件について、小関氏に大竹先生のことを執筆して頂く。独立した項(2-4)として4-8ページ程度を想定しているとのコメントが出された。
- 4). 第3章「充実期と戦時体制下の学校」を執筆中であり、戦争前の動きを整理している旨、小室編集局員から報告があった。

- 5). 第 4 章「大学制度改革と新制大学の発足」に関連した資料を整理中である旨、小室編集局員から報告があった。
- 6). 第 5 章「大学院の設置」に関連した資料を整理中であり、教授会資料などもそろっている旨、小室編集局員から報告があった。
- 7). 第 6 章「学部の拡充」を大体執筆したところである。分量として 24-30 ページ(4 万字)を目標としているが、現在 1 万字。12 月末を目途に完成を目指す旨、新聞委員から報告があった。
- 8). 第 7 章「大学紛争と大学改革」の原稿を渡辺先生から頂いた旨、大町委員から報告があった。
- 9). 第 8 章「工業短期大学部の改組」の原稿を、尾形教員に 12 月末の完成を目途に執筆を依頼した旨、小山委員から報告があった。
- 10). 第 9 章「工学研究科及び理工学研究科の発足」の原稿を渡辺教員から頂いた旨、大町委員から報告があった。
- 11). 第 10 章「入試過誤」の原稿を、奥山克郎元学部長から 10.1 ならびに 10.2 項の改訂版を頂いた旨、奥山委員から報告があった。また奥山澄夫委員も執筆する可能性がある。
- 12). 第 11 章「国立大学法人山形大学」は米竹教員が多忙につき、確認を取る事が困難であるが、資料を収集中であり対応中であると考えられる、後ほど米竹教員に確認をとる旨、栗野委員から報告があった。
- 13). 第 12 章「大学の将来計画と創立百周年記念事業」は学部長室の - 大場学部長、黒田充紀副学部長、高橋辰宏副学部長、廣瀬文彦副学部長に 来年 1 月末提出を目途に執筆依頼を行った旨、高畑委員から報告があった。

### III) その他

- ・ 次回の会議は 12 月 22 日 (水) 16 時 10 分から 第 1 応接室(予定) で開催の予定。

2009 年 12 月 7 日